町政をただす

工藤（くどう）　博利（ひろとし）議員

問 コロナ感染症収束後の町の観光事業について

答 十二湖の魅力を更に磨き上げ深浦観光のトップブランドに

問　工藤議員

①観光地である当町の来年度に対しての対策案を伺う。

また7月に十二湖振興戦略プランが策定されるとのことだが、プラン及び事業内容はいつ頃に発表されるのか。

②当町は十二湖のみが観光資源ではなく、町全体が観光資源として宣伝されて来たが、町全体の観光対策の構築が必要ではないのか。

③椿山の源泉が、今もそのままではもったいない。町での温泉利用計画が無いのであれば、活用したい民間の団体に貸す事も必要ではないのか。レストラン棟も同じく活用したい方に無料で開放してはどうか。

またコテージ棟は解体するのか再利用するのか、個人に貸すのか早期に決断することが大事だと思う。傷みが少ない島コテージ棟もどうするのか早めの判断が必要だと思う。そうしなければ、物産館以外の施設はゴーストタウン化してしまうと思われるが町の考えを伺う。

答　町長

①②当町は、日本一の大銀杏をはじめ行合崎や大岩、十二湖などの景勝地が豊富にあり、また円覚寺などの歴史資源もあるので、総合的な観光ＰＲに努めてきた。

その一方で、観光の問合せは十二湖に集中しており、この人気度は旅行雑誌の取り上げ方などからも一目瞭然で、当町において観光需要が最も高い場所は十二湖と言える。

これらの状況を踏まえ、今後の観光振興のあり方を模索したとき、まずは観光需要が高い十二湖の魅力を更に磨き上げるとともに、深浦観光のトップブランドに据えてその誘客力をもって地域全体に波及効果を及ぼす「十二湖フラッグシップ戦略」を取ることとした。

また十二湖振興戦略プランは、十二湖の魅力向上を図るための実施計画を定めることを目的として、会合を都合９回経て12月には完成させたい。

町全体の観光対策の構築には重層的・複合的な計画が必要で、十二湖振興はそのための一の矢であり、この取組を進めながら十二湖を起点に町内に観光客が回遊するような取組を二の矢、三の矢として展開し、ひいては観光産業における「稼ぐ力」の向上につながるよう尽力したい。

▲王池東湖

町政をただす

③椿山の源泉ろ過施設及び温泉販売スタンドは、現在停止しているが、今後の利活用を考慮し、海岸の源泉からろ過処理をしないで源泉を沈殿池に放流している。

なお深浦観光ホテルでは、この放流している温泉をホテルの浴場で試験的に利用している。

ウェスパ椿山の物産館以外の施設は、利活用できる施設と今後廃止・解体を検討する施設を区分けし整理をした後に、利活用のできる施設は土地・建物を民間事業者に貸付し、公的負担を伴わない施設整備・事業運営により地域活性化とにぎわいを図るため、民間事業者による企画提案を「公募型プロポーザル方式」とし、９月中旬頃に募集を開始し事業実施の候補者を公正に選定したい。

深浦サーモン養殖事業の今後の計画について

問　工藤議員

①大峰川、白神川流域に養殖施設が完備されている。今回は、大間越津梅川に養殖施設の拡張があるとの事だが、計画内容・規模はどの位か。

また環境アセスメントを実施しての動植物への問題点は解決出来たのか。地域住民の意見はどうなるのか伺う。

②養殖事業は順調に進んでいるようで、当初は今年度の水揚げ目標は８００トンと言っていたが、先月の新聞に３漁港で１２００トンの水揚げがあったと掲載されていた。

それでは深浦港・北金ケ沢漁港の水揚げ量はどの位だったのか。また将来の水揚げはどの位見込んでいるのか伺う。

③当町は、雇用対策の一つとしてサーモン養殖事業を受け入れ協力して来たが現在、深浦地区全体の雇用者は何人か。また委託事業の就業者数を伺う。

④サーモン養殖事業の当初計画では、町の中に加工施設を整備し、１００人から２００人ほどの雇用ができる計画だったと思う。計画から７年ほど経ちますが、現在も加工施設の整備と雇用計画の事業内容は変わりないのか。またこれらの目標年度について、相手方とは話合い等を行っているのか。そろそろ、その様な話題も出て来ても良い時期かと思うが、町としての早急な対応が必要ではないのか。町の考えを伺う。

答　町長

①津梅川サーモン中間養殖場は、敷地面積が２４０００平方メートル、水槽が20基、整備面積は７１４０平方メートルの約３０００トンを収容できる飼育規模の計画で、大峰川中間養殖場の約１・５倍となっている。

また環境アセスメントは、法律上義務化でない地域だが、日本サーモンファーム株式会社が自主的に各種調査を進め、取水量の制限及び有機物等の排出を最大限抑制する体制で計画している。地元漁協からは海洋生物への影響、地域住民からは騒音や鳥類などの生き物への影響について、十分に調査するよう意見があったので、日本サーモンファーム株式会社としても然るべき対応をすることとしている。

②令和３年４月からのサーモン水揚げ量は、深浦港で76ト

▲サーモンの水揚げの様子（昨年４月）

町政をただす

ン、北金ケ沢漁港で１４９トン合わせて２２５トンとなり、２０２５年までの目標は深浦港で１００トン、北金ケ沢漁港で２００トンを目指していると伺っている。

③雇用関係については、役員を含む深浦町からの雇用は現在７名で、漁協への委託事業に従事している漁業者は深浦地区で３名、北金ケ沢地区で15名となっている。

④加工施設の事業計画は、状況の変化により当初の計画とは変わって、加工施設は陸上成魚養殖と一体で周年稼働する必要があり、まずは中間養殖場の整備と海面養殖の増産体制を優先し、その上で加工施設と陸上成魚養殖計画に進む事になるとのことです。

今後も関係者による情報を共有しながら、地域の皆様への情報発信に努めていく。

神明宮名水（トヨの水）の改善について

問　工藤議員

町で整備した神明宮のトヨの水に大腸菌が含まれていると表示されている。

トヨの水は、青森県の名水に認定されている湧水であり、古くから愛用されている飲み水であります。沸騰すれば利用に問題はないとの事だが、町としてはイメージダウンになるのではないか。

原因は何か、また改善できるか早急に改善が必要である。町の考えを伺う。

答　町長

神明宮名水のトヨの水は、昭和60年２月に青森県が「私たちの名水」として認定した。この〝トヨの水〟は、飲み水としての使用を想定していないものの、町が※手水場屋舎（ちょうずばおくしゃ）を含めた周辺整備を行ったことから、年１回の水質検査をしており、平成30年５月の水質検査で大腸菌が検出されたことから、飲用の際には煮沸するよう注意喚起の表示をしている。

一般に大腸菌検出の要因として、動物の排泄物（はいせつぶつ）に含まれる大腸菌が土中の水と混じることで、比較的浅い井戸水や湧水に含まれることが珍しくない。自然の中に広く存在しているようで、ほとんどが無害とされている。

改善策としては、大腸菌を死滅させるための塩素注入や滅菌装置の設置が考えられるが、自然性や希少性といった「私たちの名水」の認定要件に照らし合わせたとき、適切な対応とは考えられない。なお令和元年度から本年度までの３回の水質検査では、大腸菌の検出がなかったが、引き続き注意喚起をしている。

▲神明宮名水（トヨの水）

※手水場屋舎（ちょうずばおくしゃ）＝参拝者が身を清めるために手水を使う施設のこと。